新　戸　神　（第３種郵便物認可）

日本語学習支援に栄誉

地道な活動で外国人の子どもケア

地域交流も評価、博報賞受賞

こうべ子どもにこにこ会

東灘区

外国人の子どもの日本語学習などを支援するボランティア団体「こうべ子どもにこにこ会」（東灘区深江南町四）が、財団法人・博報児童教育振興会（東京）の「博報賞」を受賞した。日本語学習だけでなく、精神面の支援や地域との交流を意識した活動が評価された。十四日、東京で贈呈式がある。（磯辺康子）

同会は二〇〇二年五月に設立された。東灘区は日系ブラジル、ペルー人家族が多く、十年前、大人中心の日本語教室が開講。子どもの参加が次第に増え、発達段階に応じた支援が必要になってきたことから、同会が誕生した。

日本語教室と、ペルー人の子どもを対象としたスペイン語の母語教室があり、それぞれ週二回開く。小、中、高校生約二十人が参加。中国、韓国などの子どももおり、ボランティアがマンツーマンで対応している。発足当初は東灘区内の子どもだけだったが、現在は灘区や芦屋市からも参加している。

日本語を教えるだけではなく、算数などの教科学習も支援。日本語の理解が不十分で、学校の授業についていけない子どもらの精神的ケアも重要な役割となっている。教室では、カードゲームで言葉を覚えたりしながら、楽しく交流する子どもたちの姿が見られる。

博報賞は、広告会社の博報堂が関連する財団法人の賞で、三十九回目の今年は五部門で二十一の団体・個人が受賞。同会は「国語・日本語教育部門」で受賞した。

同会コーディネーターの田中香織さん（三九）は「活動を評価していただき、励みになる。私たちの団体だけでは限界があるので、地域でのネットワークを広げ、子どもたちへの支援をさらに充実させたい」と話している。

こうべ子どもにこにこ会の日本語教室。学校の宿題をする子どもも多い＝東灘区本庄町２、本庄地域福祉センター